

第 1 1 2 回総務委員会と経産省ヒアリング記録

1. 開催日時 平成 2 5 年 6 月 2 0 日 (木)
- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1 2 : 0 0 | 第 112 回総務委員会 | 鉄鋼会館 806 |
| 1 5 : 0 0 | 経産省ヒアリング | 経産省会議室 6 F |
| 1 6 : 3 0 | 業界紙記者と懇談 | 当組合会議室 |

2. 第 1 1 2 回総務委員会

出席者

笹田幹雄 (理事総務委員長)
高木 建 (理事長)
酒匂雅信 (副理事長・東京支部長)
高木唯夫 (副理事長・東海支部長)
浅野博之 (副理事長・大阪支部長)
木村昭夫 (副理事長・九州支部長)
柘野 (事務局)

議 題

- (1) 経済産業省 2 Q ヒアリング資料の検討について
- (2) 臨時総会 (書面/理事の補欠選任) の開催について
- (3) 第 4 回全国青年交流会 (札幌市) の開催概要について
- (4) 次期通常総会の開催日時・場所について
- (5) 今後の会合予定について
- (6) その他

経 過

笹田委員長の司会により議事が進められた。

(1) 経済産業省 2 Q ヒアリング資料の検討について

事務局より標記資料について説明、一部修正の上了承された。

(資料は別稿参照)

(2) 臨時総会 (書面/理事の補欠選任) の開催について

事務局より、理事の補欠選任を行うため、臨時総会(書面)を下記要領で開催する旨説明し、了承された。

記

- ・開催日時 平成 2 5 年 7 月 1 2 日 (金) 1 4 : 0 0
- ・場 所 鉄鋼会館 6 F 組合会議室
- ・議 題 第 1 号議案 理事の補欠選任について
(理事辞任社) 角田 善彦 (東京支部) (三ノ橋鋼材(株)前代表取締役社長)
(選考委員) 高木 唯夫 副理事長 (三和鐵鋼(株)代表取締役社長)
(理事候補者) 笹川 勝治 (東京支部) (山惣熔断(株)代表取締役社長)

(3) 第 4 回全国青年交流会（札幌市）の開催概要について

事務局より、来る 9 月 20 日（金）～21 日（土）開催の標記青年交流会の開催概要に関し、以下の通り説明が行われ、了承された。

1. 日時 平成 25 年 9 月 20 日（金）～21 日（土）

9 月 20 日（金）①見学会	13：30～16：30
②地区情勢懇談会	17：00～18：30
③交流パーティ	19：15～21：00
9 月 21 日（土）○懇親ゴルフ会	7：00 スタート

2. 集合場所 新千歳空港ロビー 1F の『JAL 側到着口 A』前、12：45 集合

3. 交流会 1 日目 ー9 月 20 日（金）ー

(1) 見学会（13：30～16：30）

- ①新千歳空港からチャーターバスに乗車。
- ②「(株)ダイナックス千歳」を見学。（13：30～14：30）
- ③「白い恋人パーク」を見学。（15：30～16：30）
- ④経済センタービル着 17：00 頃

(2) 地区情勢懇談会（経済センタービル、17：00～18：30）

- 司会：北海道支部
- ①歓迎挨拶 阿部仁・北海道支部長
 - ②講話 高木建理事長、酒匂雅信副理事長（東京支部長）
 - ③地区情勢懇談会 地区情勢について地区委員より報告（1 地区 3～5 分）
 - ④閉会の辞 北海道支部
 - ⑤記念撮影 事務局

(3) 交流パーティ（北海しゃぶしゃぶ、19：15～21：00）

- 司会：北海道支部
- ①開会挨拶 阿部大祐・北海道支部青年会会長（阿部鋼材(株)専務取締役）
 - ②乾杯 松丸誠吾・東京支部青年会会長
ー歓談ー
 - ③地区代表挨拶（各地区からトピックス・関心事等を中心に挨拶）
 - ④中締め 北海道支部

4. 交流会 2 日目 ー9 月 21 日（土）ー

○懇親ゴルフ会

- ①場所：札幌エルムカントリークラブ 西コース
北海道恵庭市島松沢 55 番地 TEL 0123-33-5151
 - ②スタート：7：00
 - ③競技方法：18 ホールズ・ストロークプレー、ダブルペリア方式
 - ④プレー代：14000 円程度。各自精算して下さい。
 - ⑤参加費：5000 円（賞品代、懇親会費、等）。
- ゴルフ場まではバスで移動予定。

(4) 次期通常総会の開催日程・場所について

平成 26 年 5 月開催予定の第 39 期総会の開催日程・場所等について検討し、日程としては、平成 26 年 5 月 16 日(金)を予定日とし、開催地は、①和歌山(白浜)、②滋賀～京都等が候補地として挙げられた。本件は、次回委員会までにデータ収集など下調べを行い、それらをもとに再度検討することとなった。

(5) 今後の会合予定について

機関誌『情報』の 1 ページに掲載の「会議・会合予定表」をご参照ください。

3. 25 年度 2 Q 経済産業省ヒアリング

出席者

経済産業省

山下鉄鋼課長、石神課長補佐他

厚板シャ工組

高木理事長、酒匂東京支部長、高木東海支部長、浅野大阪支部長、
木村九州支部長、笹田理事総務委員長、
柘野(事務局)

経過

最初に、高木理事長より、「足元の状況は、前回 3 月の報告内容と比べると、1-3 月の最悪期を脱し、本年度入り後、緩慢ながら需要は建設分野を中心に好転の兆しが出てきた。最大市場の関東の鉄骨・橋梁向け切板需要は夏場から秋口に向かって確実に増加するとみられる。これに伴い地区の大手建材系シャの稼働も 7 割を超えるレベルまで戻しそうだ。地域毎の差異やタイムラグはあるが、この上振れ基調がいずれ全国的に波及するのは間違いないだろう。だがその一方で一般建築や建産機、店売り分野における不透明感は依然根強い。母材価格の値上がり分のユーザー転嫁も難航している状況である。今こそ辛抱のしどころであり、需要に見合った材料手当てに努めてまいりたい。今後とも内外需、業界動向を取り巻く環境は不安定かつ厳しい状況が続くと思う。そうした中で、我々シャ業は自主自立の構えで、数量に依存する経営から脱却し、付加価値サービスの向上とコスト削減の両立を目指し、個社毎に生き残りをかけた方策を懸命に追求していくしかない。行政当局におかれては、当業界の窮状をご理解いただき、引き続き内需喚起のための重点施策を途切れなく打ち出していただきたく、尚一層のご支援をお願いしたい。」との挨拶・要望が行われた。

続いて、各支部長から地区情勢報告が行われた後、鉄鋼課より、「需要が回復してきたことは喜ばしいことであるが、これは仮需的なものでなく、元々あった建築プロジェクトが動き出したことによるものか。」「厚板を使う製品・部材とその用途は。」「一部ファブから鋼材入手が難しくなってきたと聞くが。造船向けが増加していることがその一因か。」「建産機需要が昨年夏以降急減した理由は。」「高規格材が求められる分野・用途は何か。」「来年以降も高層建築案件は増加するのか。」等の質問が出され、種々意見交換が行われた。

以上